

2021年度 放課後等デイサービスびいーぼ自己評価表

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員10名に対して、指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			<p>継続して襖など取り外し、保育室・休憩室と言った目的別場所を設置している。また、長期休暇等で10名を超えた場合は、日課やプログラム内容(外出)や着替え場所などで工夫している。</p> <p>また今年度は、高学年も増えているので、相談室に3人掛けのソファを設置し、利用者が気軽に使える工夫を行った。</p>
	2 職員の配置数は適切であるか	○			<p>継続して保育士・児童指導員を配置し、更に福祉系大学生スタッフは将来的な人材育成として位置づけ1年生から積極的に受け入れ福祉経験者として多くが4年間継続して働いている。</p>
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切であったり、工夫なされているか			○	<p>スロープなど設置はあるが、多くが畳部屋のため自立歩行等が困難な利用者には車いすなどの利用が難しい環境である。そのため利用するに当たっては事前に環境的配慮を保護者と確認し自立と介助で対応している。</p>
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		<p>継続して曜日ごとに組んでいる職員体制の性格上、日常的な業務改善への参画が難しいが、常勤職員は参画している。</p>
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			<p>継続して保護者の保育等に関する意向などは登室時に日常的に把握し、アンケートも実施して職員間で共有している。</p>
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			<p>年度に1回、3月に開示を計画している。</p>
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	<p>現在第三者評価委員会の設置は行っていない。理事会で報告、評価を受けている。</p>
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			<p>継続して行政等から送られてくる研修情報を積極的に活用し観覧している</p> <p>今年度外部はZOOM参加が主であったが、主任が虐待関係の研修に参加、内部では、障害の学習や、ケース会議などで出た問題や課題についてはその都度理解を深める内容を共有した。(発作の基本的な話、虐待ケースについての町内の組織等)</p>
9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			<p>基本的には日常的に登室時の引継ぎを大切に、面談などで情報共有し作成している。</p>	

10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	子どもの主体性や発達課題を、健康・生活・あそび・集団の柱で評価・課題整理している。月1回や利用が無い利用者もいるため、全員の個別のアセスメントがとり切れていないことが課題にある。
11	活動プログラムの立案をスタッフで行っているか		○	継続して月1回のカリキュラム会議を専任職員等で実施、各曜日のスタッフに周知確認して実施。 尚、具体的な行事や日常のおやつ等については、利用者と話し合いの機会を持って具体化している。
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○	月1回のカリキュラムでは前月の反省に基づきカリキュラム内容を検討している。またその時は各曜日の子どもや集団から具体化している。
13	平日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○	平日と長期休暇は時間や内容が異なるが、その内容は、季節や行事等に合わせて具体化している。 個々の課題はケースで確認している。 また、楽しく学ぶを課題を目的とした総合学習として、元支援学級教員スタッフを中心に、プログラムを作り行っている。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	まずは、登室後に、個別学習や自由遊び、その後集いとおやつ、後半期に集団遊びという日課構成をたて、個人に確認した上で、学習やあそびなど設定し、集団活動では、「参加しない自由」を大切にしながら、集団との関わりを進めている。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	毎回その日に関わるスタッフ全員で、日案に沿って、利用者状況や課題、日課や行事に向けた内容と役割分担等確認し実施している。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	基本的には送迎終了後、スタッフ全員でケース検討を実施。次回の課題確認の共有に努めている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○	個別の支援については個人記録を書き、ケース検討では、個人と全体的な内容を話し合っている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○	6ヶ月毎にまとめと課題確認を行うが、行事等で多少変動している。また日程調整が難しい保護者については個別に工夫し対応している
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか		○	日常生活では、個別の自立課題を押さえながら、「参加しない自由」を大切に、年間を通じて、季節の行事、家族行事、創作活動を行っている。また、それらの活動を積極的に地域との関わるにつなげている、

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的に保育リーダーである職員が、管理者とケース会議を持ち課題を整理したうえで参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		○	町主催の関係者会議に参加。必要に応じて、「学校と事業所の連絡調整用通信袋」を使い、日常的な情報交流を行っている。 みみたに個別支援計画を入れる
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	基本的には保護者との連絡調整で済んでおり、必要であれば連絡体制を取る構えている。 簡単な対応についてはスタッフで対応できる様準備している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		町主催の関係者会議に参加。必要に応じて連絡調整できる関係にある。また、町子育て支援課との連絡調整も行っているが、今年度はコロナ禍の関係から、直接会議は実施されていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	福祉圏域で共通使用している「サポートブック」を活用しているが、直接的共有は実績としてない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	地域における「地域療育等支援事業」の一環としての研修には参加しているが、今年度は実施していない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		今年度も全員ではないが、地域のバリアフリー企画に参加し、交流をさらに広げた。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		全部ではないが、地域、部門等の専門分野では開所当初から参加しているが、今年度はズーム等による参加となった。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		通常の放課後利用では、父母による送迎を基本として頂き、常に子どもに関わる状況について把握し、場合によって個人懇談を実施。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	ペアトレーニングと銘打っての企画は行っていないが、家族企画等を通じて交流を図る機会を持っているが、規模を縮小しての企画となった。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○	運営規定については重点を、支援内容は資料を、利用料については仕組みを伝えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		子どもの送りの時等、日常的に相談がある場合は、その場で懇談をしていくことを基本にしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	継続して年間の回数は少ないが、家族企画等を通じて交流を図る機会を持っている。地域のデイ事業所合同主催で、サロンなどの交流支援を行っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情としては出ていないが、ケース会議や職員会では、父母の様子を出し合いながら、ニーズなどを捉えている。

	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		月1回以上のおたよりを発行し、利用希望調整や諸連絡を行い、法人は季刊誌を発行し、取り組みなど関係者に周知している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○		文章や画像など注意を払って引き続き利用管理している。必要に応じて利用者・保護者に確認を取って掲載などしている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		直接的な疎通が困難な場合、親戚関係者や子育て支援課など行政機関と連携している。聴覚障害児には、視覚支援やメモパット、手話等でコミュニケーションを配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	継続して行事も関係団体や地域に情報発信をして取り組んでいる。法人全体の行事では地域とのかかわりを実施している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○	新規雇用の場合資料を配布、長期休暇前にも、スタッフ会議によるマニュアル内容の確認を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年1回以上の訓練等を行っている。災害訓練グッズを使い、子どもたちと災害時の自分の動きを考えるゲームを使って訓練を行っている。
	40	コロナ禍に対する、安全確保や周知について、十分配慮をして取り組んでいると思えますか。事業所の保育環境や送迎時・日常的な3密対策などについて等	○		コロナ対策については、保育の中で子どもたちと手洗いや3密等具体的に考えあい、取り組んでいる。また、登室時の検温や手洗い、消毒も常に行っている。
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待関連の研修は4月の全体職員会、ZOOM研修等実施、。
	42	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		今までに実際に行ったケースはないが、必要な場合その確認、実施手順は確認している。
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	今までに実際に行ったケースはないが、必要な場合その確認、実施手順は確認している。
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ケース会議等で確認された内容はヒヤリハットに記載し、必ず他の曜日の全スタッフに内容と課題について周知している。
	45	その他、コロナウイルス関連についての対応を行っているか	○		コロナウイルスの対応として、 業務継続計画に基づき、行政の連絡事項や、びいーぼの開所方針などを職員会等で確認している。また緊急性のある場合は、父母の不安もあり、休日の配布も行った。